

平成 26 年度事業実績

事務局経営戦略課

1 複数館を利用した公益目的事業の推進

(1) 学習目的での施設利用の推進

各館の指導主事や学芸員と小中学校の教諭による「ガイドブック活用委員会」を設置し、小中学校がより一層、協会の学習施設を活用できるよう「学びにおいてよ！授業の流れに対応した協会施設利用ガイド」ポスターを作成し、1市2町（宮崎市・綾町・国富町）の小中学校の学級へ配布した。

また、学習目的での施設利用を目的にバスを借り上げ、利用促進を図った。

ガイドポスター：小学校用（B2判）600部 中学校用（B3判）400部
バス利用小中学校数 5校 バス利用台数 9台

(2) 子どものための音楽会の開催

需要が高い乳幼児とその保護者を対象とした演奏会を、複数の施設を管理運営する利点を生かし、年間を通して各施設において開催した。

実施回数 10回 参加者数 延べ 2,163人

(3) どっぷり体験合宿の実施

宿泊活動を通して、児童の科学的な理解や創造性を深め、郷土を愛する心を培うことを目的に、当協会が管理運営する各施設及び生目の杜遊古館において、科学・歴史・芸術文化分野の体験活動を実施した。

コース 自然・科学コース～ミクロの世界から宇宙へ！夏休みの自由研究～
 歴史・文化コース～お殿様になろう！夏休みの自由研究～
実施回数 2回 参加者数 延べ 25人

2 地域活性化への取り組み

(1) 回想法による福祉連携推進事業の実施（新規）

地域の方々からの寄贈によって収集した昔の生活用品等を活用し、「回想法」による福祉分野との「博福連携」に取り組んだ。また、次年度へ向けて、回想法貸出セットの体制を整備した。

回想法展「あった！つかった！思ひ出の道具たち」
開催期日 平成27年3月14日（土）～29日（日）
 宮崎科学技術館ライブラリー

(2) 地域ミュージアム化構想推進へ向けた検討（新規）

地域資源の発掘や再認識ができる企画の研究を進めるプロジェクトチームを設置した。「地域が一つのミュージアム」となるような事業の展開や、協会の管理する各施設も地域のミュージアムと

して認識されるよう、現地調査等を交え事業計画の検討に取り組んだ。

(3) 出前授業等の実施

各施設が、地域における教育文化施設として認識され、地域とのつながりや地域活性化に貢献することを目的に、学校や地域団体に対してアウトリーチ活動を実施した。

実施プログラム数 10プログラム

実施小中学校数 25校 実施団体数 11団体 延べ 2,711人

3 協会経営の自主性、自立性の確保

(1) 公益財団法人宮崎文化振興協会モニターの設置

利用者の意見を協会の事業に反映させるため、1市2町（宮崎市・綾町・国富町）の在住者を対象にモニターを公募し、アンケート協力や協会への提言等、協会運営への意見をいただいた。11月に意見交換会を実施し各施設の改善に生かした点等を報告した。

モニター人数 10人 意見交換会 1回

(2) 各種研修制度の実施

職員の資質向上のため、協会全体の年間研修計画を作成し研修を実施した。

協会全職員研修、法規研修、コミュニケーション研修等を実施した。

研修回数 9回 参加職員数 延べ 179人

(3) 研究事業の実施

協会職員が、指定管理者の業務達成に貢献できると認められる研究について、職員にその費用の一部又は全部を補助し実施した。

また、平成27年3月3日（火）に研究事業成果発表会を開催した。

研究数 18本 研究者数（延べ） 34人

4 広報活動について

(1) 宮崎文化振興協会レターの発行

当協会の日頃の事業成果について、役員等の協会関係者にタイムラグなくお伝えするために、毎月発行した。

発行回数 12回

(2) 協会機関誌「まなぶんか」の発行

単なるイベントの開催日時の紹介だけでなく、イベントの目的や開催するに至った経緯等を利用者に詳しく紹介する協会機関誌を年4回発刊し、友の会、県内小・中学校、各支援学校、博物館等施設、1市2町（宮崎市・綾町・国富町）の宮崎銀行各支店、入館者等に配布した。

A4版8ページ、カラー印刷、季刊で各5,000部（年4回）

宮崎科学技術館

1 管理運営事業

平成26年度から3か年の指定管理を受け、平成26年度においても展示室、パソコン研修及びプラネタリウム事業等の円滑な運営を行うための保守・点検業務などを実施し、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	305日	プラネタリウム投映日数	280日
入館者数	153,621人	利用者数	62,359人
1日平均入場者数	504人	1日平均利用者数	223人

※12/1～28（休館日5日含む）プラネタリウム改修

(2) 利用内訳

① 入館者数（小人・大人）内訳

小人	80,557人（52.4%）
大人	73,064人（47.6%）
合計	153,621人

② 入館者数（個人・団体）内訳

個人	128,880人（83.9%）
団体	24,741人（16.1%）
合計	153,621人

③ 県内教育利用内訳

・広域圏内

幼稚園・保育園	7,148人（48.9%）
小学校	5,685人（38.9%）
中学校	601人（4.1%）
高等学校	0人（0%）
一般（参考）	1,186人（8.1%）
合計	14,620人

・広域圏外

幼稚園・保育園	910人（10.2%）
小学校	6,072人（68.1%）
中学校	386人（4.3%）
高等学校	21人（0.2%）
一般（参考）	1,533人（17.2%）
合計	8,922人

④ 県外団体利用内訳

幼稚園・保育園	423人 (35.3%)
小学校	111人 (9.3%)
中学校	0人 (0.0%)
一般 (参考)	665人 (55.4%)
合計	1,199人

⑤ 県外地方別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州・沖縄	23	1,157	96.5
四国	0	0	0.0
中国	1	42	3.5
関西	0	0	0.0
中部	0	0	0.0
関東	0	0	0.0
東北	0	0	0.0
北海道	0	0	0.0
合計	24	1,199	100.0

⑥ 九州内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	1	21	1.8
佐賀	0	0	0.0
長崎	1	39	3.4
熊本	5	196	16.9
大分	0	0	0.0
鹿児島	16	901	77.9
沖縄	0	0	0.0
合計	23	1,157	100.0

2 常設展示事業

アポロ11号月面着陸船原寸大模型をはじめとした大型の展示物の他、先端科学技術を集約した展示物は約100点にのぼる。来館者が体験を通して科学の不思議や自然の素晴らしさに気付くことに努め、科学に対する興味・関心を深めさせることができた。

特に、老朽化した展示物については、コストを抑えつつ修繕を行うなど、最大限の効果的活用を努めた。

3 教室事業

(1) 科学実験・工作教室

子どもたちに「科学の芽」を育てるためのサイエンス教室や、高齢者と一般の人を対象にした「生きがい科学館」、子どもから大人まで楽しめるサイエンスショーや工作教室などを、JSCや宮崎大学のボランティア学生とともに実施した。

① チャレンジサイエンス	実施回数	30回	参加者数	延べ	6,414人
② ダ・ヴィンチ工房	実施回数	6回	参加者数	延べ	121人
③ 生きがい科学館	実施回数	7回	参加者数	延べ	43人
④ 不思議なサイエンスショー	実施回数	10回	参加者数	延べ	1,212人
⑤ 宮崎少年少女発明クラブ	実施回数	20回	参加者数	延べ	665人
⑥ ロボットクラブ (前期・後期)	実施回数	20回	参加者数	延べ	674人
⑦ どろだんご教室	実施回数	2回	参加者数	延べ	150人
⑧ 科学技術週間工作教室	実施回数	2回	参加者数	延べ	267人
⑨ 自由研究サポート教室	実施回数	3回	参加者数	延べ	13人

⑩ なんでもサイエンス(インストラクター)	実施回数	20回	参加者数	延べ	1,428人
⑪ コスモランド教室	実施回数	11回	参加者数	延べ	2,359人

(2) パソコン講座

パソコンについての基礎的な技能を習得するとともに、パソコンに対する興味・関心を高める場として、小学生から高齢者までの幅広い人を対象に開催した。

① ハガキ作成講座	実施回数	5回	参加者数	延べ	132人
② デジカメ講座	実施回数	4回	参加者数	延べ	76人
③ インターネット・メール講座	実施回数	2回	参加者数	延べ	51人
④ パワーポイント講座	実施回数	3回	参加者数	延べ	147人
⑤ パソコン入門講座	実施回数	5回	参加者数	延べ	406人
⑥ 続パソコン入門講座	実施回数	4回	参加者数	延べ	132人
⑦ ワード講座	実施回数	5回	参加者数	延べ	491人
⑧ 続ワード講座	実施回数	5回	参加者数	延べ	240人
⑨ ワード応用講座	実施回数	2回	参加者数	延べ	264人
⑩ エクセル講座	実施回数	5回	参加者数	延べ	507人
⑪ 続エクセル講座	実施回数	5回	参加者数	延べ	205人
⑫ エクセル応用講座	実施回数	2回	参加者数	延べ	176人
⑬ すいすいパソコン	実施回数	35回	参加者数	延べ	1,336人
⑭ 友の会パソコン講座	実施回数	24回	参加者数	延べ	272人
⑮ マルチメディア安心教室	実施回数	2回	参加者数	延べ	32人

4 プラネタリウム事業

3万8千個の星々を映し出す恒星投映機や全天ビデオ投映システムを生かし、一般番組や学習番組の投映を行った。また、平成26年12月に全天ビデオ投映システムの改修工事を行い、より鮮明で迫力ある映像を投映できるようになり、更なるサービスの向上に努めた。

入場者数	57,443人(※通常投映番組のみの観覧者)
投映回数	953回

(1) 一般番組

- ・永久投映権をもっている番組
「星になったチロ」「オズのまほうつかい」「むしむし星空大行進」「今夜銀河の片隅で」
- ・25年度から引き続き投映した番組
「ワンピース」(H25.7～)
- ・26年度から投映した新番組
「銀河鉄道の夜」「秘密結社鷹の爪 ブラブラブラックホールの謎」
「命輝くサンゴの海」「アースシンフォニー」

(2) 学習番組

- 「ピーターパンとほしのくにへいこう」(幼児向け)
- 「スタジオ444」(小学4年生向け)「ポワンとフーニャンの宇宙調査隊」(小学6年生向け)
- 「この空に願いを込めて…」(中学生向け)

(3) 自主製作番組

「ひむか神話～太陽の女神・アマテラス」

(4) 星空教室

プラネタリウムホールを利用して、幼児から一般を対象に、季節の星座や神話、天文の基礎を紹介し、天体や宇宙の基礎的な認識を深めるとともに、興味・関心をもってもらよう努めた。

実施回数 10回 参加者数 延べ 324人

(5) 市民天体大観望会

宮崎市のサンビーチ葉にて星空の観望会を計画したが、当日台風が接近したため実施できなかった。

実施中止

(6) スターウォッチング教室

1市2町（宮崎市、綾町、国富町）の団体を対象に、応募団体の希望の場所へ出向き、天体の基礎的な学習と実際の天体観察を望遠鏡などを用いて体験してもらうことで天体や宇宙への興味・関心をもってもらよう努めた。

実施回数 6回 参加者数 延べ 527人

(7) スターウォッチング教室 in まちなか

中心市街地の活性化及び広報の場として、「スターウォッチング教室」を市街地（橘通り3丁目交差点 MRTテラススタジオ前広場）で実施した。

実施回数 2回 参加者数 延べ 355人

(8) 皆既月食観望会

観望会当日は曇りで、皆既月食を見ることができると大変心配したが、雲間から何とか観察することができた。時間が経つにつれ赤みを増していく月の姿に宇宙の面白さを参加者と共有することができた。

実施回数 1回 参加者数 延べ 71人

5 文化振興事業

(1) 星空と音楽の夕べ

宮崎出身者や現在宮崎で活躍している音楽家の活動の場を提供するとともに、市民文化活動高揚に資するため、プラネタリウムホールで開催した。音楽の生演奏と星の解説、そしてCD音楽の解説という3部構成でのコンサートを実施した。

実施回数 2回 参加者数 延べ 147人

(2) キラキラ星空コンサート

「星空と音楽の夕べ」より気軽に楽しんでもらおうと、平成18年度からスタートしたコンサートであり、県内で活躍されている演奏家によるコンサートを実施し、幼児から高齢者までの幅広い

年齢層の人に楽しんでもらった。

実施回数 2回 参加者数 延べ 313人

(3) ヒーリングSPACE

プラネタリウムホールの有効活用を目的として、中学生以上を対象に、星空やヒーリング番組の
投映・音楽鑑賞を通して、癒しの効果を体感してもらうように努めた。

実施回数 5回 参加者数 延べ 455人

(4) イブニングプラネタリウム

多くの市民がプラネタリウムをさらに利用しやすい環境整備を目的として、閉館後の時間帯に、
星空の生解説及び番組投映を行った。更に、希望者には屋外で星空観望会も実施した。

実施回数 11回 参加者数 延べ 366人

(5) スターフェスティバル

多目的ホールを利用して、来館者を対象に、プラネタリウムに関するパネルやレンズ、望遠鏡等
を展示し、天体や宇宙の基礎的な認識を深めるとともに、興味・関心をもってもらうよう努めた。

また、3DMitakaの投映や手作りプラネタリウムの展示などを行い、宇宙への興味・関心を高め
てもらい良いきっかけとなった。

実施回数 1回(9日間) 参加者数 延べ 806人

(6) 絵本の読み聞かせ in プラネタリウム

プラネタリウムホールの有効活用を目的として、幼児から一般を対象に、ドームスクリーンを利
用した大型絵本の読み聞かせや映像による演出を通して、プラネタリウムホールを幅広く体感して
もらうように努めた。

実施回数 10回 参加者数 延べ 829人

(7) ワクワク♪ワイワイ♪プラネタリウム

幅広い世代のプラネタリウム利用拡大を目的として、通常暗いプラネタリウムを明るく子ども
向けの星空の解説を行った。

実施回数 11回 参加者数 延べ 660人

6 イベント事業

(1) 主催事業

①企画展「国際宇宙ステーション～国際宇宙ステーションってどんなところ？」

国際宇宙ステーションに関するパネルや模型の展示、ダジックアース(星の様子を立体的に投
影する装置)を使った展示などを行った。若田宇宙飛行士が国際宇宙ステーションの船長を務め
ているというタイムリーな話題であったため多くの報道機関に取り上げられた。

開催期日 平成26年4月2日(水)～4月13日(日)

入場者数 子ども 661人、大人 708人 延べ 1,369人

②こいのぼり掲揚式

近隣の幼稚園・保育園を招き、正面玄関前でこいのぼり泳がせ式を行った。また、招待した園児には手作りのこいのぼりをプレゼントした。

開催期日 平成26年4月11日(金)

入場者数 子ども 53人、大人 9人 計 62人

③「科学と遊ぼう!こどもの日」

全館を無料開放し、こどもの日にちなんだ多彩な催しを実施した。

開催期日 平成26年5月5日(月・祝)

入場者数 8,851人

④地球を守ろう環境展(第6回)

地球環境問題やリサイクルなどについての興味・関心を高めてもらうために、パネルなどの展示や実験・工作教室、ネイチャーゲーム等を行った。また、開催期間中に打ち上げられた「陸域観測技術衛星だいち2号」からの観測データは、資源開発や環境保全、環境モニターなどにも利用できる」と期待されている。そこで、環境展の関連イベントとして「H-IIAロケット(だいち2号)打ち上げパブリックビューイング」も実施した。

開催期日 平成26年5月16日(金)～5月31日(土)

入場者数 子ども 441人、大人 379人 延べ 820人

⑤若田宇宙飛行士帰還パブリックビューイング

宇宙ステーションにて船長としての任務を務めた若田宇宙飛行士の地球帰還の様子を大型スクリーンにてライブ中継を行った。

開催期日 平成26年5月14日(水)

入場者数 子ども 1人、大人 69人 延べ 70人

⑥「感謝のつどい 七夕まつり」

全館を無料開放し、七夕にちなんだ多彩な催しを実施した。

開催期日 平成26年7月6日(日)

入場者数 3,971人

⑦南極の氷譲渡式&サイエンスショーおよび関連パネル展

南極にまつわるパネル展示や、自衛隊からの南極の氷贈呈式・南極の氷を使った実験を実施した。また、関連イベントとして、プラネタリウムにて「南極の星空探検」と題した特別投映や「南極大陸横断ウルトラクイズラリー」も実施した。

開催期日 パネル展 平成26年7月 9日(水)～7月26日(土)

譲渡式 平成26年7月20日(日)

南極の星空探検 平成26年7月12日(土)～7月13日(日)

クイズラリー 平成26年7月19日(土)～7月21日(月)

入場者数 パネル展 子ども1,002人、大人1,076人

延べ 2,078人

譲渡式 子ども 43人、大人 45人 延べ 88人

南極の星空探検 子ども 83人、大人 85人 延べ 168人

クイズラリー 子ども 87人、大人 16人 延べ 103人

⑧どっぷり体験合宿（事務局経営戦略課事業）

宿泊活動を通して、児童の科学的な理解や創造性を深め、郷土を愛する心を培うことを目的に、プラネタリウムバックヤードツアーやミニプラネタリウムづくり、スターウォッチング教室を実施した。

開催期日 7月23日（水）～24日（木）1泊2日

参加者数 小人17人

⑨なるほど！なっとく！人体の科学

人間の体の仕組みや心臓と肺の役割を深めてもらうために、県立日南病院医学体験学習実行委員会などの協力を得ながら、体験学習を実施した。

開催期日 平成26年 7月27日（日）

入場者数 子ども 132人 大人 122人 計 254人

⑩WRO J a p a n 2 0 1 4宮崎大会

子どもたちが市販のキットで自律型ロボットを製作し、そのロボットを使って競技会を実施した。ロボットを制御するコンピュータのプログラムも子どもたちに開発させた。地方大会として小・中・高の3部門を実施し、それぞれの部門の代表チームが国内決勝大会（東京）に出場した。

開催期日 平成26年 8月12日（火）

入場者数 子ども 136人 大人 260人 計 396人

⑪教員のための博物館の日

教職員に向けて、科学館等が学習に役立つことを理解してもらうとともに、よりよい利用方法について周知させ、学習目的の利用を促進するために、講演会や体験ブースの出展を行った。今年度は、宮崎県総合博物館を会場として実施した。

開催期日 平成26年 7月31日（木）

入場者数 延べ 75人

⑫子どものための音楽会（事務局経営戦略課事業）

需要が高い乳幼児とその保護者を対象とした演奏会を、地元アーティストの生演奏により開催した。

開催期日 ① 8月5日（火）

② 12月4日（木）

内 容 ①温故知新（津軽三味線、パーカッション）による演奏

②吉川よしひろ（チェロ）による演奏

参加者数 ①255人（大人130人・小人125人）

②310人（大人125人・小人185人）

⑬青少年のための科学の祭典2014・宮崎大会

小中学校・高校の理科教諭、大学関係者と連携し、科学や科学技術の不思議さや楽しさを身近に体験できる実験ブースの出展をし、科学の面白さを実感してもらうとともに、科学および科学技術に対する関心を高める活動を実施した。今年度は、台風の影響もあり規模を縮小して実施した。

開催期日 平成26年 8月8日（金）～10日（日）

入場者数 延べ 7,367人

⑭第21回宇宙画作品展

児童・生徒の創造性の育成を図り、宇宙及び宇宙開発に関する興味・関心を高めるため、宇宙をテーマにした絵画作品を展示した。また、9月6日（土）には、絵画作品入賞者を対象に、表彰式を実施した。

開催期日 平成26年 8月23日（土）～9月7日（日）

入場者数 子ども 1,528人、大人 1,537人 延べ 3,065人

⑮JSCフェスティバル&科学技術館シルバーdays

敬老の日になみ、65歳以上の方と同行された家族を対象に、全館無料開放を実施した。

開催期日 平成26年9月13日（土）～15日（月）

入場者数 子ども 350人、大人 354人 延べ 704人

⑯宮崎市制90周年記念事業

宮崎ゆかりの科学者たち・ノーベル賞を受賞した日本の科学者展(新規)

宮崎市制90周年を記念して、宮崎市出身の科学者についての展示を行った。同時に巡回展「ノーベル賞を受賞した日本の科学者」も開催。パネル展示、体験コーナーの設置を行い科学を身近に感じる場の提供を行った。

開催期日 平成26年 9月27日（土）～10月13日（月・祝）

入場者数 子ども 390人、大人 474人 延べ 864人

⑰はやぶさ2打ち上げパブリックビューイング

「H-IIAロケット26号機打ち上げ」及び「はやぶさ2分離」の様子を大型スクリーンにてライブ中継を行った。天候不良等の原因で打ち上げが2度延期となり、平日の開催となったため、子どもの参加が少なかったが、話題性もあり、多くの報道機関に取り上げられた。

開催期日 平成26年12月3日（水）

入場者数 子ども 13人、大人 82人 延べ 95人

⑱宮崎市制90周年記念事業 プラネタリウムリニューアル全館無料開放(新規)

プラネタリウムリニューアルにより、より鮮明で迫力ある全天映像が投射できるようになった。プラネタリウムの新たな魅力を感じていただき、その効果を広く周知するために、全館無料開放日とした。

開催期日 平成27年1月4日（日）

入場者数 2,519人

⑲錯覚美術館(新規)

同じ大きさの図形が違う大きさに見えたり、同じ色が違う色に見えたりするなどのトリック作品などを展示した。また、錯覚研究の第一人者である明治大学の杉原厚吉教授をお招きし、錯覚作品の工作教室やサイエンスカフェも実施した。錯覚を体験し、子どもから大人まで幅広い年齢層で、その不思議を楽しんでいただくことができる企画展となった

開催期日 平成27年2月6日（金）～22日（日）

入場者数 子ども 4,443人、大人 3,195人 延べ 7,638人

⑳サイエンスカフェ

各種イベントと関連のある科学者を招き、その開催時期に合わせて、サイエンスカフェを実施した。科学者と市民を結ぶ仲介役としての科学技術館の活動であり、科学の普及・啓発に努めた。

開催期日 平成26年7月26日(土)・8月30日(土)・9月20日(土)
・11月22日(土)・平成27年2月14日(土)
参加者数 子ども 121人、大人 225人 延べ 346人

㊤だいち2号に写ろう

陸域観測技術衛星「だいち2号」の撮影する画像に写りこもうという企画。参加者にポンチョ型のアルミシートを着てもらうことで、レーダーの光を反射して画像の映り込みに試みた。映り込みには成功。また、参加者が宇宙や人工衛星により興味を持つことのできる良い機会となった。

開催期日 平成27年3月27日(金)
参加者数 子ども 54人、大人 29人 延べ 83人

(2) 共催事業 () は主催者名

- | | |
|---|------------------------------------|
| ①航空教室
(航空大学校) | 実施日 平成26年8月 2日(土)
平成27年1月24日(土) |
| | 入場者数 子ども 45人、大人 57人、延べ 102人 |
| ②宮崎ミニ水族館
(宮崎大学農学部) | 実施日 平成26年9月17日(水)～21日(日) |
| | 入場者数 子ども 995人、大人1,262人、延べ2,257人 |
| ③県学校発明くふう展
(発明協会宮崎県支部) | 実施日 平成26年10月17日(金)～19日(日) |
| | 入場者数 子ども 211人、大人 237人、延べ 448人 |
| ④宮崎市中学校毛筆展
(宮崎市中学校国語主任部会) | 実施日 平成26年10月24日(金)～11月6日(木) |
| | 入場者数 子ども 742人、大人 780人、延べ1,522人 |
| ⑤県特別支援学校アート展
(県特別支援学校校長会) | 実施日 平成26年11月26日(水)～30日(日) |
| | 入場者数 子ども 135人、大人 236人、延べ 371人 |
| ⑥宮崎地区サイエンスコンクール展
(科学夢チャレンジ事業宮崎地区実行委員会) | 実施日 平成26年12月6日(土)～26日(金) |
| | 入場者数 子ども 373人、大人 311人、延べ 684人 |
| ⑦宮崎市中学校硬筆展
(宮崎市中学校国語主任部会) | 実施日 平成27年1月9日(金)～22日(木) |
| | 入場者数 子ども 559人、大人 668人、延べ1,227人 |
| ⑧ディスカバリーキッズ科学実験館 | 実施日 平成27年3月28日(土) |
| | 入場者数 子ども 100人、大人 130人、延べ 230人 |

宮崎市歴史資料館

【みやざき歴史文化館】

1 管理運営事業

平成26年度から3か年の指定管理を受け、平成26年度のみやざき歴史文化館の管理運営業務を行い、施設の維持管理及び展示物等の円滑な運営を行うため保守・点検業務などを実施し、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	309日
入館者数	51,043人
1日平均入館者数	165人

(2) 利用内訳

① 入館者数（小人・大人）内訳

小人	27,628人（54.1%）
大人	23,415人（45.9%）
合計	51,043人

② 入館者数（個人・団体）内訳

個人	41,808人（81.9%）
団体	9,235人（18.1%）
合計	51,043人

③ 県内教育利用内訳

・広域圏内

幼稚園・保育園	2,638人（55.0%）
小学校	2,080人（43.0%）
中学校	104人（2.0%）
合計	4,822人

・広域圏外

幼稚園・保育園	0人（0.0%）
小学校	107人（100.0%）
中学校	0人（0.0%）
合計	107人

④ 県外団体利用内訳

一 般	218 人 (100%)
小学校	0 人 (0.0%)
中学校	0 人 (0.0%)
合 計	218 人

⑤ 県外地方別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州・沖縄	5	110	50.4
四国	0	0	0.0
中国	0	0	0.0
関西	0	0	0.0
中部	1	6	2.8
関東	4	92	42.2
東北	0	0	0.0
北海道	1	10	4.6
合計	11	218	100.0

⑥ 九州内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	2	61	55.5
佐賀	0	0	0.0
長崎	0	0	0.0
熊本	0	0	0.0
大分	1	28	25.4
鹿児島	2	21	19.1
沖縄	0	0	0.0
合計	5	110	100.0

2 常設展示事業

宮崎の考古・歴史、民俗・民俗芸能、神話、民具等に関する資料を展示し、見て、触れて、楽しく学びながら歴史・文化に親しみ、郷土を理解する場を提供した。

3 企画展示事業

(1) 企画展『歴史文化館のあゆみ展』

平成25年度に行った各種体験学習や本館を訪れた小学校等の説明や体験活動等の様子をパネルで紹介し、1年間の活動の様子を振り返る。

開催期日 平成26年4月13日(日)～5月11日(日)

入場者数 5,353人

(2) 企画展『平成26年度歴史3館合同収蔵品展』

歴史3館の収蔵資料を活かした展示を行うほか、平成25年度に新たに当館に収蔵された物を展示した。

開催期日 平成26年5月18日(日)～6月22日(日)

入場者数 3,887人

(3) 夏の特別企画展『歴史の中の数と量』

宮崎平野を中心とした歴史上の事件・事象を数と量の観点から紹介するほか、度量衡や単位にまつわる資料を通じて『数える』・『量る(計る)』歴史を紹介した。

開催期日 平成26年7月5日(土)～8月31日(日)

入場者数 12,774人

(4) 市制90周年特別企画展『宮崎の武士たち』

宮崎市制90周年に当たり、藩政期の宮崎市域に伝わる武家の伝来品を通して武士たちの姿を紹介した。

開催期日 平成26年10月4日(土)～11月30日(日)

入場者数 9,796人

(5) 年中行事『宮崎の正月展』

宮崎県内に伝わる正月の風景、代表的な飾り、伝統行事等を実物、模型、写真パネル等で紹介した。注連縄、餅つき道具、昔の正月のおもちや、正月飾りや料理、神社の絵馬、伝統凧などを展示した。

開催期日 平成26年12月13日(土)～平成27年1月12日(月・祝)

入場者数 2,407人

(6) 企画展『城ヶ崎の俳壇』

江戸時代、上方交易の玄関口だった赤江港を擁する赤江・城ヶ崎は、「赤江千軒」と歌われた商人の町であった。上方文化の入り口として俳句を中心とした文化が栄えたが、その城ヶ崎俳壇の活動の様子を紹介した。

開催期日 平成27年1月18日(日)～2月22日(日)

入場者数 4,324人

(7) 企画展『歴史文化館のひな祭り』

これまでに寄贈されたひな人形を中心に展示しながら、ひな人形の歴史についても解説した。また、吊るし飾りのひとつである「さげもん」の収集展示も行った。

開催期日 平成27年2月1日(日)～3月8日(日)

入場者数 4,236人

4 歴史文化振興・教育普及事業

(1) 講座

①宮崎の歴史文化講座

宮崎の歴史・文化について、歴史研究家の方々を講師として実施した。

実施回数 6回

参加者数 188人

②古文書講座

みやざき歴史文化館ボランティア会員を講師として、前期は古文書【新著聞集】、後期は古文書【養生訓】の解読演習を行った。

実施回数 20回(前後期各10回)

参加者数 453人

(2) 史跡探訪会

県内の史跡や建造物等の文化財を訪ね、それぞれの文化財に対する理解と関心を深めるとともに、文化財への愛護意識を啓発する目的で実施した。

【1回目】日向方面の史跡めぐり

開催期日 平成26年 9月14日(日)

見学地 大御神社 鶴戸神社 平岩地蔵尊 都農神社 美々津の町並み
講師 みやざき歴史文化館学芸員
参加者数 20人

【2回目】清武方面の史跡めぐり

開催期日 平成26年10月19日(日)
見学地 きよたけ歴史館 安井息軒旧宅 中野神社 稲津掃部助の墓 船引神社
講師 みやざき歴史文化館学芸員
参加者数 17人

【3回目】日向方面の史跡めぐり

開催期日 平成26年11月8日(土)
見学地 大御神社 鶴戸神社 平岩地蔵尊 都農神社 美々津の町並み
講師 みやざき歴史文化館学芸員
参加者数 18人

【4回目】清武方面の史跡めぐり

開催期日 平成27年1月25日(日)
見学地 きよたけ歴史館 安井息軒旧宅 中野神社 稲津掃部助の墓
講師 みやざき歴史文化館学芸員
参加者数 11人

【5回目】都城・霧島方面の史跡めぐり

開催期日 平成27年3月1日(日)
見学地 霧島神宮 島津寒天工場跡 乙房神社の田の神様 田島かくれ念仏洞
講師 みやざき歴史文化館学芸員
参加者数 21人

(3) 体験学習

昔から行われてきた農作物の栽培・収穫等の農耕体験学習や昔の人々の暮らしと関連した、「竹を使ったおもちゃ作り」等の製作体験学習を行うもので、子どもと一般の参加者を対象に実施した。

農耕体験学習	実施回数	4回
	参加者数	延べ 129人
製作体験学習	実施回数	24回
	参加者数	延べ 641人

(4) 学校教育との連携

学校教育において体験学習が重視される中で、当館でも学校教育への支援活動を行った。主なものは、隣接する住吉南小学校「歴史文化体験クラブ」が当館を利用しての体験学習(全12回)や、教育委員会の助成制度等を利用しての当館見学(18校)があった。見学の際は「昔の道具」「厩屋」「古代住居」などの展示説明や石臼体験などの「体験学習」も行った。

5 イベント事業

(1) 「こどもの日」イベント

鎧・兜の試着、紙兜作り、メンコ作り、まが玉作り、竹とんぼ・鶯笛作り、史跡公園ウォー

クラリー、野点ほか多数のイベントを実施した。

開催期日 平成26年5月3日(土)～5月5日(月・祝)

入場者数 2,537人

(2) 夏休みイベント

① 「史跡公園 生き物採集教室」

開催期日 平成26年7月19日(土)

内 容 蓮ヶ池史跡公園をめぐりながら、昆虫などの生き物を採集

参加者数 38人

② 「魚のつかみ取り」

開催期日 平成26年8月23日(土)

内 容 館の前にプールを設置し、アユのつかみ取りを実施

参加者数 121名

③ 「夏休みの楽しい工作」

開催期日 平成26年8月20日・27日(水)

内 容 古銭のストラップ作り

参加者数 29人

(3) その他のイベント

子どものための音楽会(事務局経営戦略課事業)

需要が高い乳幼児とその保護者を対象とした演奏会を、地元アーティストの生演奏により開催した。

開催期日 ①9月10日(水)

②2月19日(木)

内 容 ①Hideトリオ(ベース、キーボード、パーカッション)による演奏

②岩切邦光、岩切響一(橘太鼓 響座)による演奏

参加者数 ①350人(大人70人・小人280人)

②320人(大人120人・小人200人)

6 資料収集、調査・研究

(1) 資料収集について公共施設を中心に情報提供を呼びかける広報を行い、市民より歴史・民俗資料182点の寄贈があった。

(2) 資料管理について検討を行い、協会研究報告書に報告を掲載した。

【宮崎市佐土原歴史資料館】

1 管理運営事業

平成26年度から3か年の指定管理を受け、平成26年度の宮崎市佐土原歴史資料館の管理運営業務を行い、施設の維持管理及び展示物等の円滑な運営を行うため保守・点検業務などを実施し、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	304日
入館者数	24,064人
1日平均入館者数	79人

(2) 利用内訳

①入館者数（小人・大人）内訳

小人	6,854人 (28.5%)
大人	17,210人 (71.5%)
合計	24,064人

②入館者数（個人・団体）内訳

個人	18,574人 (77.2%)
団体	5,490人 (22.8%)
合計	24,064人

③県内教育利用内訳

・広域圏内

幼稚園・保育園	1,813人 (48.4%)
小学校	1,523人 (40.6%)
中学校	411人 (11.0%)
合計	3,747人

・広域圏外

幼稚園・保育園	20人 (7.1%)
小学校	262人 (92.9%)
中学校	0人 (0.0%)
合計	282人

④ 県外団体利用内訳

一般	575人 (100.0%)
小学校	0人 (0.0%)
中学校	0人 (0.0%)
合計	575人

⑤ 県外地方別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州・沖縄	14	333	57.9
四国	0	0	0.0
中国	1	46	8.0
関西	1	13	2.2
中部	1	40	7.0
関東	3	116	20.2
東北	1	27	4.7
北海道	0	0	0.0
合計	21	575	100.0

⑥ 九州内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	1	20	6.0
佐賀	0	0	0.0
長崎	0	0	0.0
熊本	1	10	3.0
大分	1	25	7.5
鹿児島	11	278	83.5
沖縄	0	0	0.0
合計	14	333	100.0

2 常設展示事業

(1) 鶴松館

江戸期の佐土原城二の丸居館の一部発掘調査をもとに想像復元した「鶴松館」では、掛軸・屏風・鎧兜などや、佐土原島津家の調度品を展示するとともに、地元で伝承される佐土原人形を展示している。藩主が日常政務をとる場の外観を再現した書院では、古代から近現代にかけての佐土原の歴史を各時代の資料を展示して解説している。

(2) 佐土原出土文化財管理センター

ここでは、展示研修室で農具・民具などの民俗資料常設展示と、展示室で企画展を開催している。屋外展示では、出土遺構をもとに、佐土原藩の「御普請所」建物の基礎部分を保存・展示している。また、収蔵庫等にて佐土原町域の文化財・歴史資料の収蔵・保存をしている。

(3) 商家資料館 旧阪本家

江戸時代から味噌や醤油の製造販売を手がけていた商家「旧阪本家」（明治 38（1905）年築重層入母屋造（平入）（市指定有形文化財・市景観重要建造物））を資料館として、1階に机や銭箱などを配した帳場を再現し、2階に当時の商いに関する資料を展示している。

3 企画展示事業

(1) 企画展「節句人形展」

子どもたちの健やかな成長を願い、商家資料館において、武者や「馬乗り軍人」等の郷土の端午の節句人形（佐土原人形）と画家 弥勒 祐徳 氏による佐土原人形の水彩画（色紙絵）等を併せて展示した。

開催期日 4月26日（土）～5月25日（日）

入場者数 延べ 284人

(2) 企画展「歴史3館合同収蔵品展」

みやざき歴史文化館・宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館と共に新規収蔵資料や普段公開されない資料を相互借用し展示した。

開催期日 6月28日(土)～8月31日(日)

入場者数 延べ 944人

(3) 企画展「佐土原の史跡～陶板がいざなう佐土原の歴史～」

旧佐土原町域の各史跡・観光スポット30カ所に案内板と共に設置された陶板絵(造形アーティスト 立山 周平 氏作)を写真パネルにて展示するとともに、当館が所蔵する各史跡に関する資料(戊辰戦争従軍佐土原藩兵慰霊祭で建立された豊烈曜後之碑(高月院境内所在)等石碑の拓本、佐土原十六烈士の御用木、佐土原神社の墓股及び獅子木鼻等)を展示した。

開催期日 10月25日(土)～2月22日(日)

入場者数 延べ 2,177人

(4) 企画展「ひな人形展～佐土原人形が彩る桃の節句～」

子どもたちの健やかな成長を願い、商家資料館に佐土原人形の雛人形(内裏雛や歌舞伎人形、女兒をモチーフとした風俗人形等)等を展示した。

開催期日 2月7日(土)～3月15日(日)

入場者数 延べ 831人

4 歴史文化振興・教育普及事業

講座

(1) 歴史文化講座「郷土を学ぶ」

江戸時代の城下町の様子や参勤交代の状況、そして佐土原に関係した人物、また佐土原城についても講座を実施した。

実施回数 5回

参加者数 延べ 132人

(2) 古文書講座

みやざき歴史文化館ボランティアの会員を講師に、佐土原藩江戸屋敷の日記「佐土原藩 嶋津家日記」(宝暦4年1月～)の解説を実施した。

実施回数 8回

参加者数 延べ 100人

(3) 体験学習

城下町佐土原に古くから伝わる工芸品等の製作及び城跡の自然環境を活用し、昔のくらしと文化にまつわる体験学習を、子どもとその保護者、一般の参加者を対象に実施した。

実施回数 8回

参加者数 延べ 165人

(4) 史跡探訪会・文化財探訪ツアー

資料館近隣の史跡や文化財、及び伊東氏・島津氏ゆかりの地を探訪し、それぞれの文化財に対する理解と関心を深めるとともに、郷土愛を育み、文化財愛護の意識を高めた。

【第1回】

開催期日 平成26年9月28日(日)

講師 野村 稔子

見学地 平等寺・僧日講遺跡・多楽院
参加者数 19人

【第2回】

開催期日 平成26年10月19日(日)
講師 立山 紘
見学地 久峰観音堂・曾我どのの墓
参加者数 10人

【第3回】

開催期日 平成26年11月8日(土)
講師 中武 康利
見学地 宮崎城跡・浮橋(浸々橋)・稲津刑部少輔墓・那珂城跡・愛宕神社
参加者数 21人

【第4回】 文化財探訪ツアー

開催期日 平成26年11月30日(日)
案内 飢肥城下町ボランティアガイド
見学地 伊東家累代墓地・小村寿太郎記念館及び同生家・豫章館・商家資料館、飢肥城歴史資料館・飢肥城松尾丸・潮嶽神社
参加者数 23人

5 イベント事業

(1) だんかいアルファライブ(自主事業)

出土文化財管理センターにて、当館職員が所属するバンド「だんかいアルファ」によるギター・尺八のコラボレーションライブを行い、フォークソングを中心とした演奏を通し、当館の周知及び来館促進の機会とした。

開催期日 平成26年4月26日(土)
参加者数 39人

(2) 佐土原花しょうぶ祭り(共催事業)

佐土原花しょうぶまつり実行委員会主催。同委員会と共催にて、鶴松館裏庭の花しょうぶ園で花しょうぶ祭りを実施した。

開催期日 平成26年5月31日(土)～6月1日(日)
内容 野点・近隣保育園園児によるダンス・軽トラ市・鶴松館内でギターと尺八演奏及び大正琴の演奏 他
参加者数 延べ 4, 169人

(3) 「いちからはじめる自転車教室 in 鶴松館」(共催事業)

特定非営利活動法人 MIYAZAKI うづら ai クラブ主催。当館駐車場にて子どもの自転車安全教室を実施すると共に、鶴松館を見学の上で佐土原の歴史にふれる機会とした。

開催期日 平成26年7月6日(日)
参加者数 18人(大人6名・小人12名)

(4) どっぷり体験合宿（事務局経営戦略課事業）

宿泊活動を通して、児童の科学的な理解や創造性を深め、郷土を愛する心を培うことを目的に、当館の見学の他、佐土原城下を散策するフィールドワークや乗馬体験・神代独楽づくり体験・茶道体験等を行った。

開催期日 8月22日（金）～23日（土）1泊2日

参加者数 小人8人（他引率 大人6人）

(5) 神代独楽回し大会（自主事業）

佐土原に江戸時代から下級武士の内職として作られ、端午の節句のお祝いとして伝えられてきた神代独楽を使ったこま回し大会を正月行事として開催した。

開催期日 1月4日（日）10:00～12:00

内 容 佐土原伝統的工芸品保存会協力のもと、児童の部と一般の部に分けて、こまが回っている時間で勝敗を決した。

参加者数 19人

(6) 佐土原人形伝承講座（共催事業）

佐土原人形伝承会主催。郷土の伝統工芸品である佐土原人形を後世に永く伝えていくことを目的として同会と共催で、毎月1回人形作りを佐土原出土文化財管理センターにて行った。

開催期日 平成26年5月から平成27年1月までの毎月第2木曜日（計12回）
10:00～12:00

内 容 平成27年の干支である「未」の人形と創作人形の2体ずつを、型入れから絵付けまでの全工程を経て作成した。

参加者数 17人（伝承会員8人・受講者9人）

(7) 子どものための音楽会（事務局経営戦略課事業）

需要が高い乳幼児とその保護者を対象とした演奏会を、地元アーティストの生演奏により開催した。

開催期日 ①7月30日（水）
②1月28日（水）

内 容 ①Music Cocktailによる歌とピアノ・サックスの演奏
②ミールによるピアノとヴァイオリンの演奏

参加者数 ①239人（大人94人・小人145人）
② 76人（大人47人・小人 29人）

(8) 島津太鼓フェスティバル「島津パネル展」（共催事業）

島津太鼓フェスティバル実行委員会主催。佐土原総合文化センターで開催された同祭における共催事業として、出前展示を行った。

開催期日 2月11日（水・祝）

内 容 歴代佐土原藩主とそれにまつわる資料を主に写真パネルにて展示した。

観覧者数 205人（大人172人・小人33人）

※同祭入場者のうち、パネル展のみの観覧者

(9) 古地図探検隊（共催事業）

宮崎市教育委員会文化財課主催。佐土原城下図を使い、古地図と現在の地図を見比べながら4つの文化財や史跡等を巡るスタンプラリーを実施した。チェックポイントは、平成27年2月1日に

オープンした城の駅「佐土原いろは館」をはじめ、当館の鶴松館・商家資料館「旧阪本家」や佐土原城・同城下のくいちがい十字路や旧飫肥街道など。

開催期日 2月21日（土）
入場者数 205人

6 資料収集、調査・研究

(1) 資料収集

市民より歴史資料1点、民俗資料4点の寄贈があった。

(2) 資料調査

佐土原人形や端午の節句幟（のぼり）等の民俗資料の調査（4件）

(3) 研究活動

広瀬転城に関する研究。日高次吉文書「広瀬転城概略」を翻刻し、解題を添えて宮崎市歴史資料館研究紀要 第6号へ掲載し公開した。

(4) レファレンス及び資料の特別利用対応

市民及び出版社、報道機関、研究機関等からの佐土原の歴史（約51件）や当館収蔵資料の書誌掲載等の利用に関する問合せ（23件）の対応をした。

【宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館】

1 管理運営事業

平成26年度から3か年の指定管理を受け、平成26年度の宮崎市天ヶ城歴史民俗資料館の管理運営業務を行い、施設の維持管理及び展示物等の円滑な運営を行うため、保守・点検業務などを実施し、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	310日
入館者数	19,274人
1日平均入館者数	62人

(2) 利用内訳

① 入館者数（小人・大人）内訳

小人 11,523人（59.8%）
大人 7,751人（40.2%）
合計 19,274人

② 入館者数（個人・団体）内訳

個人 15,308人（79.4%）
団体 3,966人（20.6%）

合 計 19,274 人

③ 県内教育利用内訳

・ 広域圏内

幼稚園・保育園 78 人 (2.6%)
 小学校 2,957 人 (97.4%)
 中学校 0 人 (0.0%)
 合 計 3,035 人

・ 広域圏外

幼稚園・保育園 0 人 (0.0%)
 小学校 105 人 (100.0%)
 中学校 0 人 (0.0%)
 合 計 105 人

④ 県外団体利用内訳

小学校 0 人 (0.0%)
 中学校 0 人 (0.0%)
 一 般 152 人 (100.0%)
 合 計 152 人

⑤ 県外地方別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州・沖縄	1	94	61.9
四国	0	0	0.0
中国	2	31	20.4
関西	0	0	0.0
中部	0	0	0.0
関東	1	5	3.3
東北	0	0	0.0
北海道	0	0	0.0
海外 (アメリカ)	2	22	14.4
合計	6	152	100.0

⑥ 九州内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	0	0	0.0
佐賀	0	0	0.0
長崎	0	0	0.0
熊本	0	0	0.0
大分	0	0	0.0
鹿児島	1	94	100.0
沖縄	0	0	0.0
合計	1	94	100.0

2 常設展示事業

大淀川とともに生きてきた旧高岡町の人々の生活ぶりや薩摩藩の外城として栄えた江戸時代の高岡、穆佐の武家社会の様子などを資料や映像などの展示を通して紹介している。見て、触れて、楽しく学びながら歴史・文化に親しみ、郷土愛を培う場を提供した。

3 企画展示事業

(1) 企画展「歴史3館合同収蔵品展」

開催期日 平成26年4月26日(土)～6月15日(日)
入場者数 延べ 2,782人
内 容 歴史3館がそれぞれ所蔵する資料を展示することで、歴史3館の連携を図る場とした。高木兼寛関連資料のほか、平成25年度の当館寄贈資料を展示した。

(2) 企画展「近代の機械展」

開催期日 平成26年7月19日(土)～9月23日(火、祝)
入場者数 延べ 1,891人
内 容 一定の動力を与えることで、目的とする作業を効率よく達成させる道具を広義の機械と捉える。日常生活から産業発展まで幅広く貢献した機械類を展示し、現在の生活を振り返るきっかけとする。

(3) 企画展「野崎哲絵画展」

開催期日 平成26年10月11日(土)～11月30日(日)
入場者数 延べ 2,243人
内 容 高岡町内の小中学校で教員として活躍し、その傍ら日常生活や高岡に伝わる伝統行事の風景などを描いた絵画130点余りを展示した。故郷を振り返るとともに、絵画を通して大正、昭和の人々に暮らしに思いをはせる。また、絵画に描かれた古い民具も展示することで、次期開催の企画展「昔の道具展」の宣伝・予告へとつなげた。さらに、企画展関連ワークショップとして、草木染めを11月22日に実施した。(20名参加)

(4) 企画展「昔の道具展」

開催期日 平成26年12月13日(土)～平成27年2月15日(日)
入場者数 延べ 4,058人(ただし、授業支援の人数を含む)
内 容 小学校3年生の社会科で取り扱う「古い道具とむかしの暮らし」等の学習に資することを目的として当館所蔵の古民具や写真等を展示した。

4 歴史文化振興・教育普及事業

(1) 古文書講座

黒木弘一氏を講師に招き、古文書資料の解説を行った。
実施回数 全5回 参加者数 37人

(2) 体験学習

伝統的なおもちゃを中心とした製作体験学習を行うもので、主に宮崎市近郊在住の子どもとその保護者を対象に実施した。

実施回数 全9回 参加者数 257人

(3) 天ヶ城歴史文化講座

① 史跡めぐり

宮崎市内の史跡や資料館を訪ね、歴史・文化に対する理解と関心を深めるとともに文化財

愛護意識を高める目的で実施するものである。今回は清武地区と木花地区の文化財や史跡をめぐるバスツアーを行った。

開催期日 平成27年3月1日(日)
講師 当館学芸員(施設によっては当該施設の職員による解説)
見学地 船引神社→乳岩→黒坂観音・山内石塔群→木花神社→円南寺→
外所大地震供養碑→西教寺→きよたけ歴史文化館・安井息軒旧宅
参加者数 5名

②歴史講演会

毎年、高岡に関連する歴史・民俗分野の講演会を実施している。今回は前田博仁氏をお招きして、黒田官兵衛と高岡との関わりについて講演会を実施した。

開催期日 平成27年3月8日(日)
講師 前田 博仁 氏
演題 飢肥の宮崎城攻め 一裏に黒田官兵衛の策略—
参加者数 13人

(4) 授業支援事業「むかしの道具たち」

資料館に収蔵している昔の道具を活用し、小学校の社会科における「変わってきた人びとのくらし」の学習等の充実に資することを目的として実施した。

対象 宮崎市、綾町、国富町内の小学校
方法 事前に学校へカタログを配布し、申し込みのあった学校に道具を運搬して、当方の管理下で道具の活用を支援した。授業においては、古い道具を見たり触れたりする見学体験活動を十分行ったのち、児童の質問に応じて、道具についての解説を行った。
実施回数 全31回実施(うち5件については、当館にて実施)
参加者数 2,965人

5 イベント事業

(1) 創作神楽

創作神楽を各地で公演している日向橘寿獅子七人衆を招き、当館2階展示室を講演会場として神楽の上演を実施した。

開催期日 平成26年11月1日(土)
① 11:00~12:00 ② 13:00~14:00
演目 八岐大蛇(やまたのおろち)
観覧者数 20名

(2) 子どものための音楽会(事務局経営戦略課事業)

需要が高い乳幼児とその保護者を対象とした演奏会を、地元アーティストの生演奏により開催した。

開催期日 ①平成26年11月12日(水)
②平成27年3月18日(水)
内容 ①神崎充(ギター・ウクレレ)、長谷川愛(うた・キーボード)による演奏

②日高慶子(ヴァイオリン)、土田浩(チェロ)、土田悦子(ピアノ)による演奏
と回想法資料のオルガンの演奏

参加者数 ① 171名 (大人90名・小人81名)
② 82名 (大人41名・小人41名)

6 資料収集、調査・研究

歴史・民俗資料を中心とした資料18点の寄贈があった。

大淀川学習館

1 管理運営事業

平成26年度から3か年の指定管理を受け、大淀川学習館の適切かつ円滑な管理運営業務を行うため、展示物の工夫等を行うとともに、施設の維持管理、保守・点検などを実施し、健全で効率的な管理運営に努めた。

(1) 利用状況

開館日数	310日
入館者数	183,653人
1日平均入館者数	592人

(2) 利用内訳

① 入館者数(小人・大人)内訳

小人 101,019人(55.0%)
大人 82,634人(45.0%)
合計 183,653人

② 入館者数(個人・団体)内訳

個人 164,365人(89.5%)
団体 19,288人(10.5%)
合計 183,653人

③ 県内教育利用内訳

・広域圏内

幼稚園・保育園 6,038人(59.9%)
小学校 3,892人(38.6%)
中学校 150人(1.5%)
合計 10,080人

- ・ 広域圏外
 - 幼稚園・保育園 270人 (12.1%)
 - 小学校 1,911人 (85.2%)
 - 中学校 61人 (2.7%)
 - 合計 2,242人

④ 県外団体利用内訳

- 一般 0人 (0.0%)
- 小学校 16人 (100%)
- 中学校 0人 (0.0%)
- 合計 16人

⑤ 県外地方別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
九州・沖縄	1	16	100.0
四国	0	0	0.0
中国	0	0	0.0
関西	0	0	0.0
中部	0	0	0.0
関東	0	0	0.0
東北	0	0	0.0
北海道	0	0	0.0
合計	1	16	100.0

⑥ 九州内県別団体利用内訳

地域	団体数	人数	比率%
福岡	0	0	0.0
佐賀	0	0	0.0
長崎	0	0	0.0
熊本	0	0	0.0
大分	0	0	0.0
鹿児島	1	16	100.0
沖縄	0	0	0.0
合計	1	16	100.0

2 展示事業

(1) 常設展示

大淀川及びその流域の自然、文化、歴史などについて、みて、ふれて、楽しみながら河川環境に対する学びを深めるため、季節に応じた生体の展示を行った。また、エントランスホールでは、メキシコサラマンダー（ウーパールーパー）やトランスルーセントグラスキャットフィッシュ（骨が透けて見える小魚）など、珍しい生体も展示した。

(2) 生体展示

① 自然楽習園^{がくしゅう}

自然楽習園^{がくしゅう}では、子どもたちの自然を観察する力を向上させるため、園内に小川を再現し、チョウの食草や蜜源植物を育てている。季節ごとのチョウの姿を自然に近い状態で再現しており、学習効果を高めるために、生体の状況に応じた説明板の設置など、解説の工夫も行っている。平成16年度からチョウの飼育業務を外部委託しており、常時100頭以上の個体を維持している。平成26年度の総放蝶数は5,168頭に及んだ。

② 生体展示ホール

高知県の水族館と連携をとり、大型水槽に30cm級の若いアカメを1匹補充した。来館者の中心となる小さな子どもたちに人気のある生体を充実させ、また、子どもたちの視線の高さも考

慮しながら、より観察しやすい場所に配置換えするなどの工夫を行った。

③ホタル展示室

ホタルビオトープのリニューアルをはじめとするホタル羽化率向上の取り組みの結果、自館内で24匹のホタルの羽化に成功した。また、成虫だけでなく、長い期間を過ごす幼虫の姿の観察活動を促すことで学習効果を高めることができた。

(3) 企画展示

① 企画展「水の生き物と仲良くなろう！ザリガニ展」

内 容 生き物とのふれあいを通して生命の素晴らしさに気づかせるとともに、在来種と外来種について正しい知識をもたせ、大淀川流域の自然を大切にしようとする意識を育てるために、アメリカザリガニを多数展示し、タッチプールで触れたり、ザリガニ釣りを体験したりする活動を行った。

開催期日 平成26年4月12日（土）～6月15日（日）

入場者数 延べ 36,752人

② 特別企画展「森の生き物と仲良くなろう！カブトムシ・クワガタムシ展」

内 容 大淀川流域や世界で見られるカブトムシやクワガタムシの生態や生息環境についての理解を深め、昆虫への興味・関心を高めるために、カブトムシを自然に近い状態で放し飼いにするとともに、夜間の活動のようすも観察することができるように遮光できるコーナーをつくり展示した。

開催期日 平成26年7月5日（土）～8月31日（日）

入場者数 延べ 64,717人

③ 期間展示「水の生き物と仲良くなろう！ドクターフィッシュ体験」

内 容 様々な水の生き物の一つとして、人の角質を食べてくれる珍しい魚「ドクターフィッシュ」を多数用意し、設置したプールでの体験活動を行った。

開催期日 平成26年9月13日（土）～10月13日（月・祝）

入場者数 延べ 16,028人

④ 企画展「ミクロの世界の探検展」

内 容 生き物への興味・関心を高めるため、身近な動植物をマクロ撮影し、色や形をわかりやすく伝えるとともに、肉眼では見ることができない微細なつくりとその役割がわかる展示を行った。

開催期日 平成26年10月18日（土）～11月23日（日）

入場者数 延べ 12,575人

⑤ 企画展「カラー魚拓への誘い」

内 容 カラー魚拓の展示を通して、魚の形や色、模様などの特徴を鮮やかに伝え、魚類への興味・関心を高めるために、地元の愛好家たちの作品を展示した。

開催期日 平成26年12月2日（火）～平成27年1月12日（月・祝）

入場者数 延べ 8,816人

⑥ 企画展「市制90周年記念企画展 宮崎市の歩みと大淀川」

内 容 宮崎市の市制90周年を記念して、これまでの宮崎市の歩みを宮崎の母なる大淀川の流れとともに振り返るパネルや映像を展示した。

開催期日 平成26年12月2日(火)～平成27年2月1日(日)

入場者数 延べ 13,680人

⑦ 企画展 「幸せかもん!カメカメ展」

内 容 新年を迎えるにあたって、古来より縁起の良い生き物とされるカメを展示し、カメにまつわる昔話なども織り交ぜたパネル展示も行った。カメに直接ふれることのできるイベントも開催した。

開催期日 平成27年1月4日(日)～2月1日(日)

入場者数 延べ 7,823人

⑧ 企画展 「宮崎県産材で積み木遊びをしよう！」

内 容 宮崎県産材で作製した「からから積み木」を大量に準備し、自由な発想のもと家族等で作品を制作し、完成品と一緒に写真撮影をするなどした。

開催期日 平成27年1月18日(日)～3月29日(日)

入場者数 延べ 26,034人

⑨ 企画展 「春一番!ひな山」

内 容 大淀川流域の民俗文化への興味・関心を高めるために、大淀川清流域の綾町で育まれた「ひな山」をエントランスホールに展示した。

開催期日 平成27年2月7日(土)～3月8日(日)

入場者数 延べ 13,558人

(4) 作品募集と展示

① 第14回大淀川流域の写真展

内 容 流域の自然の姿への関心を高め、自然を大切にする心を育てるために、大淀川流域の動植物・風景等の写真を募集・展示した。

応募数 292点

開催期日 平成26年9月13日(土)～10月5日(日)

入場者数 延べ 13,662人

② 第20回大淀川流域の動植物画コンクール入賞作品展

内 容 大淀川流域の動植物に対する興味・関心を高めるとともに、動植物を観察する力を育てるために、大淀川流域に生息・生育する動植物の精密画を募集・展示した。

応募数 2,697点

開催期日 平成26年10月12日(日)～11月23日(日)

入場者数 延べ 13,838人

③ 第10回小・中学校川の学習展

内 容 大淀川流域の環境に対する関心を高めるため、小中学校で行われている総合的な学習の時間等でまとめた、河川に関する実態等の学習成果を募集・展示した。

応募数 14点

開催期日 平成26年12月2日(火)～平成27年1月25日(日)

入場者数 延べ 12,150人

(5) 川のシアター

内 容 大淀川自然环境への興味・関心を高めるため、4本の番組(A大淀川の自然

を訪ねて、B大淀川の水と生き物たち、C大淀川の生き立ちと生き物、D母なる川～大淀川～)をオリジナルの立体ハイビジョンにて上映した。また、7月19日から年度末まで、子どもたちに人気のさかなクンが出演する番組「海の生き物大冒険」も追加上映した。

① 定常上映

一日5回、定時に上映した。

② 特別上映

団体上映：団体の来館時間に応じ、また、都合がつく限り番組も調整して上映した。

臨時上映：繁忙期など来館者が多い場合には、上映回数を増やした。

(6) 里山の楽校^{がっこう}

多目的施設「杉の家」、地層観察コーナー、野草コーナーなどを設置し、動植物の観察、地層観察など、幼稚園や保育所等の園児、小学校の児童が中心に活用した。現在は、敷地にかかる部分で下北方浄水場の造成工事が行われており、今後について関係機関と協議を進めている。

3 学校対応事業

学校、保育所等の教育、保育課程に沿った支援活動を行うことによって、教育効果を高めることを目的として実施した。

(1) 授業支援

対 象 小・中学校等

実施回数 8回

参加者数 延べ 973人

内 容 チョウの生態や地層の学習について、本物の良さを最大限生かしつつ、館で作成したワークシートを用いて学習指導を行った。

(2) 指導者支援

対 象 小・中学校教諭等

実施回数 3回

参加者数 延べ 31人

内 容 チョウとメダカについての生態観察や飼育方法に関する内容、宮崎層群の成り立ちに関する内容について、先生方に講義・演習を行った。

(3) 子ども会・PTA支援

対 象 子ども会やPTA関係者

実施回数 9回

参加者数 延べ 872人

内 容 展示に関する説明や自然をテーマにした簡単な工作活動を行った。

4 教室事業

自然に対する興味・関心を高めるとともに、環境に対する理解を深めることを目的として行った。

(1) 環境教室

対 象 小学生以上
実施回数 7回（8回の予定のうち、「大淀川の水を調べよう」が増水のため中止）
参加者数 延べ 143人
内 容 「川の生き物で水質調べ」「伝統のホタルかご作り」「ホタル環境教室」「上下水道施設見学で自由研究」「牛乳パックで年賀はがき作り」「野鳥の巣箱作り」「ペットボトルで工作」を行った。

(2) 観察教室

対 象 小学生以上
実施回数 10回
参加者数 延べ 238人
内 容 「食べられる野草さがし」「ミツバチ教室」「メダカの飼育観察」「オオムラサキ野外観察会」「明りに集まる昆虫観察教室」「カブトムシ・クワガタムシの飼育教室」「植物採集で自由研究」「バスで巡る大淀川源流と宮崎の名所・地層」「まつぼっくりでクリスマスツリー作り」「身近な生き物を探そう」を行った。

(3) 体験教室

対 象 小学生以上
実施回数 10回
参加者数 延べ 275人
内 容 「アユの稚魚放流体験」「大淀川釣り教室」「昆虫標本作りにチャレンジ」「石の工作」「貝殻の工作」「カヌーにチャレンジ」「ハーブティー教室」「ミツロウキャンドル作り」「カラー魚拓に挑戦しよう」「シイタケの駒打ち」を行った。

(4) 園児教室

対 象 幼稚園や保育所等の園児
実施回数 24回
参加者数 延べ 947人
内 容 生体を見たり触れたりする活動と簡単な工作活動を行った。

5 イベント事業

連休や学校の休業日を利用して、学習館の利用を促進するとともに、自然に親しみ、水環境に対する関心を高めることを目的として行った。

(1) 季節のイベント

対 象 全来館者（内容により年齢制限を設けているものもある）
実施回数 14回（16回予定のうち、「グリーンアドベンチャー」が雨天のため、「アユつかみに挑戦」が台風のため中止）
参加者数 延べ 1,023人
内 容 「ミニつり大会」「ザリガニ釣りに挑戦(2回)」「ニジマスつかみに挑戦!」「カブトムシ・クワガタムシのクイズ大会」「カブトムシ・クワガタムシのすもう大会」「小魚すくい」「里山夕涼みコンサート」「大淀川ウォークラリー」「フリスビー大会 in 水辺の楽校^{がっこう}」「餅つき大会」「昆虫輪投げ大会」「大淀川学習館検定」「金魚すくいに挑戦」を行った。

(2) ふれあいウィークエンド

対 象 全来館者

実施回数 24回

参加者数 延べ 834人

内 容 「ミニ鯉のぼりを作ろう」「七夕飾りを作ろう」「お正月飾りを作ろう」「てんとうむしマグネットを作ろう(3回)」「季節の花で押し花かざりを作ろう」「植物でウェルカムボードを作ろう」「ハイドロカルチャーにチャレンジ」「紙コップを使って遊ぼう(2回)」「木の実でコマを作ろう(2回)」「バランストンボを作ろう(2回)」「タネ模型を飛ばそう(2回)」「針金アメンボを浮かせよう(3回)」「葉っぱで遊ぼう(3回)」「かんたん凧作り」を行った。

6 開館20周年記念事業

(1) 講演会 「河川や動植物に関する講演会」

内 容 講師に「世界のゼフィルス大図鑑」の著者である小岩屋敏氏を迎え『「母なる大淀川の昆虫たち」～みて・ふれて・楽しんで～』と題した講演会を開催した。講演会は、生体を用いて子どもたちにも楽しめる内容で行った。

開催期日 平成26年10月26日(日)

参加者数 48人

(2) 企画展 「開館20周年記念企画展 大淀川学習館の20年」

内 容 平成27年3月に開館20周年を迎えるにあたって、学習館の開館からの様々な事業の様子などを、当時の子どもたちの姿を中心に振り返るパネルを作成し、展示した。

開催期日 平成26年12月2日(火)～平成27年2月1日(日)

入場者数 延べ 13,680人

(3) 刊行物 「大淀川学習ガイドブック作成事業」

内 容 大淀川流域の自然環境や歴史、水資源の保全などについて、生体を中心に学習できる冊子を作成した。館で観察できる生体も豊富に掲載し、来館して学ぶことができる内容も示してある。小学校を中心に配付し、子どもたちの学力向上と豊かな心づくりを支援する予定である。

作成部数 2,000部

7 その他の事業

(1) 学校教育との連携

小中学校の校外学習への支援事業や学校教育における生活科、理科、総合的な学習の時間における環境学習など、ハード・ソフトの両面から学校教育の支援を図るとともに、各種研修の対応についても内容の充実を図った。

来館学校

小学校 90団体 延べ来館者 6,042人

中学校 4団体 延べ来館者 350人

特別支援学校他	5 団体	延べ来館者	93 人
<u>幼稚園等</u>	<u>196 団体</u>	<u>延べ来館者</u>	<u>6,418 人</u>
合計	295 団体	延べ来館者	12,903 人

(2) カブトムシの幼虫プレゼント(宮崎科学技術館との連携)

宮崎科学技術館のこどもの日無料開館に合わせ、科学技術館の受付にて「カブトムシの幼虫プレゼントチケット」を配布し、翌日、大淀川学習館にチケットを持参した子どもにカブトムシの幼虫(館にて産卵させ飼育したもの)をプレゼントした。

開催期日 5月6日(火・祝日)

参加者数 小人48人

(3) 子どものための音楽会(事務局経営戦略課事業)

需要が高い乳幼児とその保護者を対象とした演奏会を、地元アーティストの生演奏により開催した。

開催期日 6月12日(木)

内 容 トリリンリン&ユンユンユン(パーカッション、キーボード)による演奏

参加者数 115人(大人73人・小人42人)

(4) どっぷり体験合宿(事務局経営戦略課事業)

宿泊活動を通して、児童の科学的な理解や創造性を深め、郷土を愛する心を培うことを目的に、大淀川学習館では、学習指導要領に基づいて、生き物どうしのつながりにスポットを当てたプログラムを実施した。

開催期日 7月23日(水)~24日(木) 1泊2日

参加者数 小人17人

(5) 各種関係団体等との連携

開館当初からの関係団体である「宮崎自然愛好会」や市内各地域にあるホタル保存会をはじめ「宮崎内水面漁業協同組合」「宮崎市カヌー協会」「日本野鳥の会」、元当館職員など多くの関係団体より協力を受け、連携しながら各教室などを行った。

(6) 情報提供と広報活動

ICT(情報通信技術)を積極的に活用し、SNS(ブログ、フェイスブック)を用いた情報提供や広報活動を行った。

宮崎市民プラザ

1 管理運営事業

平成26年度は、当協会が宮崎市民プラザの指定管理者として再指定を受けて初年度となること

から、管理運営については「公平・公正な管理運営」「満足度の高い管理運営」「安心・安全で効率的な管理運営」の3つの基本方針を定め、利用者サービス向上による利用者増対策に重点的に取り組むとともに、利用者が安全・快適に利用できるよう施設の管理運営を行った。

(1) 利用状況

開館日数	308日
入館者数	240,962人
1日平均入館者数	782人

(2) 利用内訳

・ ホール	入場者数	63,893人	(利用率 77.69%)
・ ギャラリー	入場者数	46,141人	(利用率 96.10%)
・ 練習室①	入場者数	15,540人	(利用率 85.25%)
・ 練習室②	入場者数	5,874人	(利用率 97.40%)
・ 大会議室	入場者数	19,598人	(利用率 94.48%)
・ 中会議室	入場者数	10,382人	(利用率 93.51%)
・ 小会議室①	入場者数	6,126人	(利用率 96.10%)
・ 小会議室②	入場者数	5,149人	(利用率 93.83%)
・ 和室	入場者数	5,248人	(利用率 86.36%)
・ 学習室	入場者数	5,477人	(利用率 81.82%)
・ プレイルーム/授乳室	入場者数	501人	
・ カフェクレーン	入場者数	7,170人	
・ 市民活動センター	入場者数	35,904人	
・ 団体室	入場者数	5,517人	
・ ホール(打合せ)	入場者数	462人	
・ ギャラリー(打合せ)	入場者数	108人	
・ 窓口受付	受付人数	7,648人	
・ 視察者等	47団体	224人	
	合計	240,962人	

2 自主事業

自主事業については、「創造・制作事業の実施」「普及・育成事業の実施」「鑑賞事業の実施」の3つの取組方針を定め、公益目的事業と地域活性化の更なる推進に重点的に取り組むとともに、施設の特徴を生かした事業を実施した。また、宮崎市が市制90周年を迎えたことから、記念事業にも取り組んだ。

(1) 企画推進委員会の実施状況

第1回	平成26年10月9日(木)	宮崎市民プラザ 学習室
	(1)	平成26年度宮崎市民プラザ自主事業の実施状況について
	(2)	平成27年度宮崎市民プラザ自主事業計画<案>について
第2回	平成27年3月19日(木)	宮崎市民プラザ 和室
	(1)	平成26年度宮崎市民プラザ自主事業の実施状況について
	(2)	平成27年度宮崎市民プラザ自主事業計画について

(2) 自主事業実績

	事業名	開催日・場所等	入場料	入場者数
1	宮崎市制90周年記念演劇公演 波の上の青い島	平成26年8月9日(土) 平成26年8月10日(日) オルブライトホール	一般/2,000円 (当日2,400円) 高校生以下/1,000円 (当日1,200円)	(9日)185人 (10日)484人 (10日)178人
2	市民プラザコンサート ～フォーク!ロック!時代を超えたハヤリウタ～	平成26年8月31日(日) オルブライトホール	入場券/500円 (当日600円)	334人
3	市民プラザ寄席 正蔵・歌春二人会	平成26年9月2日(火) 桂歌春の落語教室(アウトリーチ) 大宮小学校6年生 池内小学校5年生	無料	142人 45人
		平成26年9月6日(土) 正蔵・歌春二人会 オルブライトホール	一般/2,000円 (当日2,400円) 高校生以下/1,000円 (当日1,200円)	291人
4	宮崎・音のスケッチブック ～秋のヒーリングコンサート～	平成26年10月19日(日) 橘公園噴水広場	無料	261人
5	ファミリーミュージカル シンドバットの冒険	平成27年2月8日(日) オルブライトホール	一般/1,000円 (当日1,200円) 高校生以下/500円 (当日600円)	483人
6	木嶋真優スペシャルカルテット ～Concert for MIYAZAKI～	平成27年3月1日(日) オルブライトホール	指定席/3,000円 (当日3,600円) 自由席一般/2,000円 (当日2,400円) 自由席学生/1,500円 (当日1,800円)	441人
7	子どものための 文化芸術体験プログラム (アウトリーチ事業)	平成26年10月3日(金) 能楽体験【伝統芸能プログラム】 木花小学校6年生 浦之名小学校5・6年生	無料	45人 7人

		平成26年10月21日(火) コンテンポラリーダンス 【舞踊プログラム】 宮崎南小学校5年生	無料	129人
		平成26年11月25日(火) 読み聞かせとクラシックコンサ ート【情操教育プログラム】 いずみ幼稚園	無料	178人
		平成26年12月11日(木) 演劇の手法を使ったワークシ ョップ【演劇プログラム】 綾中学校1年生	無料	73人
8	おでかけアートプログラム (アウトリーチ事業)	平成27年3月3日(火) ハーブアンサンブル 【病院プログラム】 医療法人ハートピア 細見クリニック	無料	34人
		平成27年3月24日(火) ハーブアンサンブル 【福祉施設プログラム】 養護老人ホーム清流園	無料	39人
入場者数 合計				3,349人

3 その他の事業

子どものための音楽会（事務局経営戦略課事業）

需要が高い乳幼児とその保護者を対象とした演奏会を、地元アーティストの生演奏により開催した。

開催期日 10月16日(木)
内 容 銀島弓、稲森愛(ピアノ)による演奏
参加者数 245人(大人117人・小人128人)